

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 30

2016年10月発行

夏季企画展

## 植田家のお茶道具

2016年アンケート結果

「冷やし旧家、終わりました」



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十四)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示のご案内

2016年度 秋季企画展  
**植田家のにのこる  
浮世絵っ!?**  
平成28年  
10月22日(土)～12月23日(祝・金)

休館日=火曜日、11月4日(金)・24日(木)  
開館時間=午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【入館料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料  
※11/19(土)・20(日)は「関西文化の日」により入館無料

企画関連イベント  
●10/30(日)14:00～15:30 講演会  
「浮世絵～上方役者絵の話～」(講師北川博子氏)  
●11/23(祝・水)14:00～20分 ギャラリートーク(講師同前)

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡 旧植田家住宅  
TEL 0731-0084(文庫館) 八尾市植田1-1-25 <http://kyu-uedakejotaku.jp/>

平成28年度 秋季企画展

### 「植田家のにのこる浮世絵っ!？」

2016年10月22日(土)～12月23日(祝・金)

役者絵、芝居絵、相撲絵、肉筆美人絵など、植田家のにのこる浮世絵を展示します。

※休館日はP15をご覧ください

# Contents

- 4 夏季企画展  
「植田家のお茶道具」
- 6 連続講座  
「水(みず)」&こどもガイド体験講座(夏)
- 7 夏季講座「講座！八尾市の文化財」
- 8 2016年アンケート結果  
「冷やし旧家、終わりました」
- 10 かまどでご飯炊き体験
- 11 四会所だより(10)
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③⑩
- 13 第八回 河内木綿まつり
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十四)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真

### たわらおずみもんちやわん 《俵鼠文茶碗》

俵型の茶碗に米俵と鼠が描かれています。正面から見ると鼠は一匹ですが、周りを見てみると俵をじっと見つめる後ろ向きの鼠や俵に頭を突っ込む鼠もいます。この茶碗を展示した秋季企画展「植田家のお茶道具」の記事は、本誌4・5頁に掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

# 植田家の お茶道具



茶碗各種



蓋置いろいろ



側面



背面



側面

## 夏季企画展「植田家のお茶道具」

前号の『植田家だより』でもお伝えしました夏季企画展「植田家のお茶道具」が、7月2日(土)〜9月11日(日)の期間に開催されました。夏の期間は納涼企画「冷やし旧家はじめました」も同時開催され、涼を求めてやって来る来館者にとっても、涼やかな展示となりました。

今回の企画展では、植田家が所蔵し日々使用してきたお茶道具およそ60点を前・後期に分けて展示しました。お茶道具といえば、実際の席で使用するものは実に40種類以上もあり、そのひとつひとつの道具にも趣味や場に応じたものがあり、そこから選んで用いられます。そのため膨大な数の道具が必要となり、所有者の特徴(趣味)もまたそこに表れるといえます。

お茶の愉しみのひとつである道具の鑑賞は、お茶に通じていない人でも分かるほどに奥が深く、また単純に面白いと思えるものがたくさんあります。例えば今回の表紙にある《俵屋文茶碗》は、格式というよりもユーモアたっぷりな俵型の茶碗がそのまま俵になっており、その正面には鼠が描かれています。しかも周囲をぐるりと見回すと、一方では米俵を見つめる鼠の後ろ姿と、横にはなんと俵に頭を突っ込む

鼠の姿が描かれています。

また釜の蓋を置くための「蓋置<sup>ふたおき</sup>」も、基本形が7種類あり、そのひとつである「蟹型<sup>かに</sup>」の蓋置はただでさえインパクトがありますが、植田家所蔵のものは大きさも形もリアルなものが使われていました。自分の好みだけではなく相手に喜んでもらおうとするサービス精神のようなものが個々のものから感じられ、これこそがおもてなしの精神だということが道具を通して伝わってきます。

ただ「面白い」だけでなく「すごい」ものももちろんあり、《樂茶碗》をはじめ、千家十職<sup>せんけじっしやく</sup>による茶道具の数々は、知識がなくても技術や見た目の美しさに目を奪われてしまいます。釜や建水などの大きな道具から茶杓や香合などの小さな道具に至るまで、作り手の想いが形となって表れています。そして何よりも、お茶道具は使って始めてその真価が問われるもので、使う人の心がその価値を決めるということはいままでもありません。

当時の植田家の人々がどのような想いで、またどのような人々と共にこれらの道具を使用したのかを考えると、お茶道具のまた違った一面が見えてきます。

(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)



丸釜・釜鑊・風炉



建水・風炉先屏風・柄杓立



水指(算盤玉形、釣瓶形、陶製)



茶杓・茶入各種



菓子器



天目茶碗と天目台

## 企画展関連企画「夏のお茶会」

企画展開催中の8月21日(日)には、関連企画として、大阪府立八尾高校茶道部の協力のもと「夏のお茶会」を主屋で開催しました。緊急企画のため事前の告知が十分ではありませんでしたが、当日は計5席で33名の参加がありました。

お茶会では、色とりどりの着物に身を包んだ茶道部のみなさんがお点前を披露し、初々しくもすっかりとした所作でお客さんをおもてなしました。普段の高校のお茶室とは勝手が違うため、戸惑いもあるかと思いましたが、すぐに順応し、植田家を実践の場として活用してもらえたことが大変よかったです。また来年も開催できるように期待をしています。



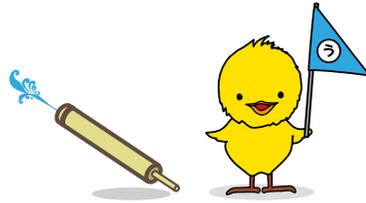
# こどもガイド

## 体験講座(夏)

# 水

—みず—

(全3回)



7/28(木)



連続講座「水(みず)」(全3回)

ひとつのテーマにちなんだ全3回の講座を行なう連続講座・前期(6月～8月)のテーマは「水」。第一回目では大和川の付け替えを学ぶ講座を行ないました。参加者は二人と少しさびしくも、資料を広げながらのゆったりとした講座となりました。大和川付け替え関連の講座は、年間を通して何度も行なっていますが、その都度発見することも多く、参加者の方々からも、より専門的な見や感想を頂きました。大阪府では小学校4年の単元にも登場しますが、ほとんどの場合、大人になると学習したことも覚えていないため、その記憶を呼び覚ます使命が旧植田家住宅にはあると思います。

さて、そんな連続講座・前期ですが、第二回(7月)と第三回(8月)は、猛暑も助け、参加者なしで不開講となりました。予定していた「水鉄砲作り」と「お茶道具の鑑賞」は次回の講座に持ち越します。

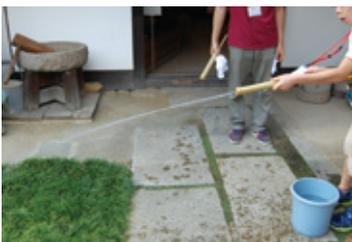


こどもガイド体験講座(夏)

さて、「こどもガイド体験講座(夏)」では、親子一組の参加があり、夏ならではの体験をしてもらいました。まずはガイド体験として、夏の暑さを感じながら旧植田家住宅のくらしの様子を学びました。すでに昔の道具となった黒電話をさわってみたり、蚊帳に入り、建物の見学では今のくらしとの違いを感じました。

また、おまけの「昔のくらし体験」では、竹で水鉄砲を作ってもらい、庭で飛ばしましたが、会心の作に驚きの表情と最高の飛距離を記録しました。暑い中にも喜びがたくさんあった体験講座でした。

(学芸員 安藤亮)



# こうザ 講座！ 八尾市の文化財



7月16日(土)は、「講座！八尾市の文化財」と題した夏期講座を旧植田家住宅で行ないました。今回はいつもの講座と少し趣向を変え、二人の講師を迎えての二本立てです。

一つ目のテーマは、八尾市文化財課課長の消氏による「古文書・発掘調査からみる八尾の地震痕跡」のお話です。地震のメカニズムや過去の地震の特徴についてまずは述べられました。いつの時代も日本の歴史には地震との関わりがみられ、そのことを『日本書記』をはじめ、八尾市に伝わる諸々の文書が伝えていきます。地震の記録としてだけでなく、その地震によって過去にどのような物が在り、どのように影響を及ぼしたのかということが文字の記録から明らかになっていきます。また、遺跡の発掘調査に見られる地震の痕跡の特徴についても詳しく述べられ、普段あまり知り得ない「地理と歴史」の関係性を読み取ることができました。「記録を残して後世に伝えていくこと」の大切さを最後に語られました。



文化財と地震について語る消(みなもと)氏

二本目は、昨年、旧植田家住宅で開催した研究会でも講演をしていたいた八尾市文化財保護審

議会委員の山中浩之氏

(大阪府立大学名誉教授に、

「豪農層の文化受容」を

テーマに、江戸時代の豪

農層の書画収集について

再びお話をしていただき

ました。まずは旧植田家

住宅の所蔵する書画・書籍の特徴を述べられ、

「こうした収集がどのように行なわれたのか」

を周辺地域の同じような家を手がかりに紐解

いていきます。今回例に挙げられたのは河内

国分の豪農や富田林の酒造家、泉州佐野湊浦の

豪農など、植田家とは異なった家々ですが、書

画の入手ルートにはいくつかの特徴があり、植

田家にも該当する条件が具体例の中に見出す

ことができました。昨年の研究会においては、

広い視点での豪農層の書画収集に焦点を当て

られました。今回は八尾市の文化財として旧

植田家住宅の内状にも迫り、理解をより深める

ものとなりました。

終了後のアンケートにもありましたが、今回

は「八尾市の文化財」について興味と関心が高

められた講座でした。また機会があればぜひ

企画したいと思います。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)



書画収集について語る山中浩之氏

# 冷やし旧家 終わりました。

長い夏とともに納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」が終了しました。7月から9月初旬までの期間中、連日たくさんの方が来館し、井戸水に足をつけ、蚊帳に入り、ラムネを飲み、主屋で涼み、そしてまた足水をしながらラムネを飲んだり、思い思いに楽しんでもらった様子でした。

さて、期間中は企画展「植田家に伝わるお茶道具」の開催もあり、利用者アンケートを実施しました。ご協力いただいた



主屋は簾戸に入れ替えて夏の装いに

皆様に御礼を申し上げるとともに、アンケート結果の一部をこの場にて掲載します。

また、8月19日(金)には、蚊帳を利用した取り組みとして、「蚊帳の中で読み聞かせ」も地域の読み聞かせの会(子どもの育ちを見守る親の会)の協力のもと行うことができましたが、この日はあいにくの猛暑日で、ささやかなイベント実施となりました。現代では殆ど使う機会のない蚊帳ですが、初めての人も使ったことがある人もみな「とても懐かしい気分」にさせられます。

今年は特に暑さが長引き、10月に入ってもまだ夏のような日が続いています。そんな日には、冷やし旧家が終わっていても、まだまだ子どもたちが、「足水させてください」と旧植田家住宅を訪れます。秋はもうすぐ目の前です。

(旧植田家住宅 スタッフ)



「蚊帳の中で読み聞かせ」も実施



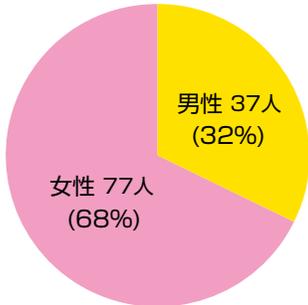
とても懐かしい気分させられる蚊帳

# 安中新田会所跡 旧植田家住宅 利用者アンケート 結果

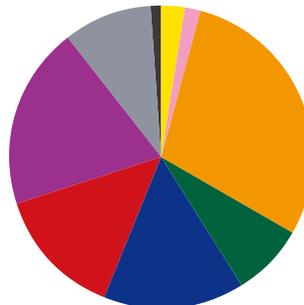
今年の7月から9月までの期間、旧植田家住宅で実施した利用者アンケートの結果です。ご協力ありがとうございました。

2016.7.9～9.11

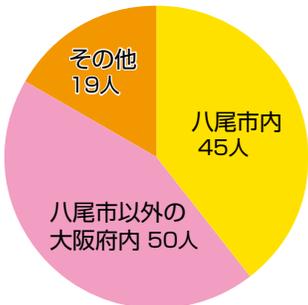
合計枚数 **114** 枚



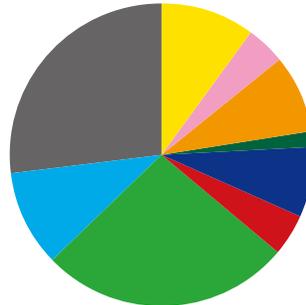
Q1. 性別？



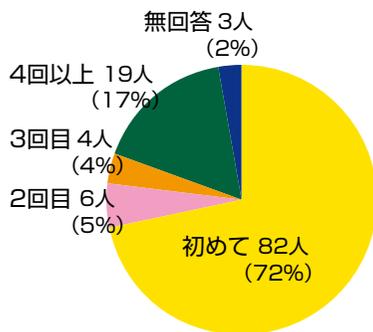
Q2. 年齢？



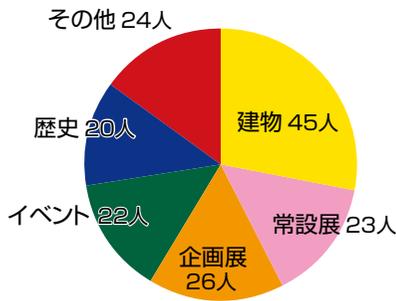
Q3. お住まいの地域は？



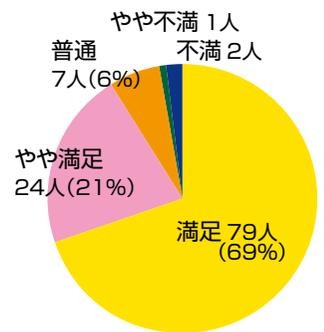
Q4. 旧植田家住宅を  
何で知りましたか？



Q5. 何回目の来館？



Q6. 来館した目的は？



Q7. 展示について？

# 防災！かまどでのご飯炊き体験

いざという時のために、  
昔と今のくらしの知恵を  
ご飯を炊きながら学ぶ



9月1日の「防災の日」にちなみ、旧植田家住宅では3日(土)午前「かまどでのご飯炊き体験」を実施しました。かまどで炊くご飯が食べられるとあって、毎回人気の企画ですが、防災に役立つ知識や知恵も身に付けられ一挙両得であります。

災害時、もし電気などのライフラインがストップした場合、かまどがあればお湯を沸かすことができ、暖をとることもできます。しかし使い方が分からなければ意味がありません。最近では「かまどベンチ」なるものが公園などに設置されていることがあり、ますます需要が高まってきているように思います。

イベントには、若い親子連れを中心に、お年寄りの方々も参加し、まずは基本的な薪の組み方について学びました。「どんな置き方をしたら火が点きやすいか、一度やってみてください」とスタッフの難題に試行錯誤する子どもたち。ピラミッド型に組み、

新聞紙を上手く使うことで、火が点きやすくなることを学ぶと、いよいよご飯を炊きます。「災害時でもおいしいご飯が食べたい」という想いで、しっかりとその手順を覚え、工程をクリアしていくと、お釜からの湯気がだんだんとご飯の匂いに変わっていききました。見事おいしいご飯が炊けました。「ご飯はやっぱかまどがいい」という感想も聞くことができ、昔のくらしの知恵に感動した参加者でした。また現代の知恵として、新聞紙で作るスリッパ作りや最新の防災グッズの紹介のほか、食品の密封保存などでも実験し、さらに防災意識を高めることができました。

(旧植田家住宅スタッフ)



薪の組み方を考え中



新聞紙で防災スリッパ作り

# 四会所だより (10)

## 特別展「よみがえる平野屋新田会所」

現在の大東地域の平野部一帯には、江戸時代まで深野池ふかのという池が広がっていました。今から約300年前、上流の大和川が付け替えられたことにもない、深野池を干拓した大規模な新田開発が東本願寺の大坂難波御堂（現在の真宗大谷派難波別院）によって行われました。開発された新田はほとんど難波御堂の手を離れて五つの新田に区分されましたが、このうち、大坂の両替商・平野屋又右衛門が所有した深野南新田と河内屋南新田を管理運営するためにつくられたのが、平野屋新田会所でした。

周濠に囲まれた平野屋新田会所のかつての屋敷地は東西約120m、南北約80mで、約3000坪の面積を有しており、邸内には主屋棟、座敷棟、米蔵、道具蔵、屋敷蔵のほか、生駒山を借景とする庭園などがありました。これらの建物は残念ながら2008年に取り壊されましたが、大東市が公有地化し

た会所跡地の北西部には、米蔵、道具蔵の礎石と船着場の石段が保存されています。

この秋、大東市立歴史民俗資料館では、大東市市制施行60周年特別展「よみがえる平野屋新田会所」を開催します。特別展では、考古・建築・文献・民俗・宗教の五つの視点から、過去に実施した発掘調査・建物調査の成果や、会所に伝わっていた古文書、新田で使用されていた大型の踏車、かつて会所の屋敷神だった坐摩神社の絵馬など、平野屋新田会所の歴史を物語る貴重な資料を展示します。また、特別展開催を機に、以前から大阪府下の三つの新田会所（鴻池新田会所、安中新田会所、加賀屋新田会所）で実施されていたスタンプラリーに、新たに平野屋新田会所が参加します。

今回の特別展を通じて、大東市の発展の礎を築いた新田開発と平野屋新田会所の歴史を多くの方に知っていただければ幸いです。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

（大東市教育委員会生涯学習課

佐々木 拓哉）

◇11月12日(土)～来年1月15日(日) 10:00～20:00

特別展「よみがえる平野屋新田会所」

●大東市立歴史民俗資料館（来ぶらり四条 2階）

場 所：大東市野崎 3-6-1

交 通：JR 学研都市線「野崎」駅下車徒歩約10分

休館日：第1・3火曜日、12月29日(木)～1月3日(火)

お問合せ：072-876-7011(電話) / 072-876-7702(FAX)



平野屋新田会所の踏車（大東市立歴史民俗資料館所蔵）



ありし日の平野屋新田会所表長屋門（2004年頃）

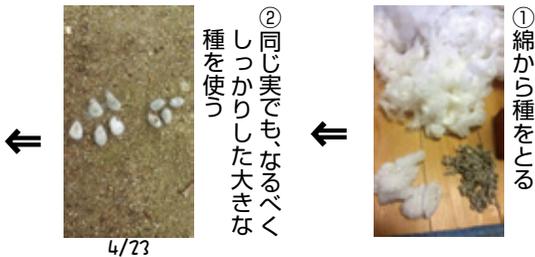


※会場には、平野屋新田会所のスタンプも設置しています。

# なにわの伝統野菜 栽培日記

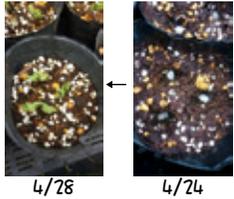
No.30

八尾を代表するもののひとつ河内木綿。毎年、夏野菜と同じ5月頃に種をまき、大切に育てている。が、つい伝統野菜ばかりにいいところを持っていかれ、影のうすい存在になっていく。そんな奥ゆかしい河内木綿の栽培記録を今回は夏休みの宿題状態で絵日記風に紹介しようと思う。



② 同じ実でもなるべくしっかりと大きな種を使う

④ 種まきから4日後に発芽



③ まく前日に種を水につけ発芽しやすくする



⑨ 支柱を立てる  
※間隔は茎から指2本分



⑧ 本葉が3〜4葉になった(一本立ち)



⑦ 本葉が出て、茎もしっかりしてきた



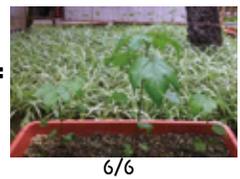
⑥ 二葉が開いた



⑪ 60〜80cmで先端をつむ(芯どめ)



⑩ 同じ環境でも差がこれだけ出る



⑬ 9月下旬、そろそろ終盤を迎える



⑮ サクがはじけて綿が顔を出す



⑭ 「サク」とよばれる実ができる



...っと最後の最後まで活躍してくれます。(アンタはエライ!)



←よく見ると、綿は3つ〜5つのものまで!

# マンジーくん

安富士 暁



いた木綿の着物や布団にふれることのできるコーナーも設け、参加者に楽しんでもらいました。

江戸時代から明治時代にかけて産業として盛り上がった河内木綿は、明治時代より衰退の一途をたどり、現在では趣味(娯楽)や復元

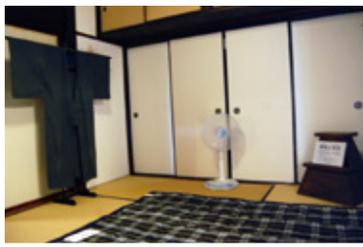
などでしか見ることができません。その意味において本来の河内木綿は殆どのこつていませんが、今なおその歴史や文化は継承されています。こうしたイベントを通して、一人でも多くの人に関心を持ってもらえるようになればと願います。(旧植田家住宅 学芸員)

## 第八回 河内木綿まつり

九月十七日(土)  
十八日(日)

今年も八尾市立歴史民俗資料館主催の「河内木綿まつり」が二日間で開催され、八尾市での河内木綿の啓発を目的に、歴史民俗資料館をはじめ、市内七カ所の会場で各団体による河内木綿に関する様々な催しが行なわれました。ここ旧植田家住宅でも、昨年に引き続き、

八尾の地において木綿栽培から機織りまでを独学で習得し、河内木綿の伝統と技を伝えられた故・寺尾和一郎氏の「寄贈河内木綿資料と道具の展示」を行ないました。また木綿の綿繰りから糸つむぎ、ミニチュア版の機織りの体験に加えて、植田家で実際に使用して



体験 展示



## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (二十四)

文・伊東健

谷崎潤一郎メモリアルイヤーの皮切りとして注目されたのが「細雪」のモデルと言われていた松子夫人宛を含めた書簡二八八通の初公表でした。「細雪」は昭和十八年一月に「中央公論」誌上に連載が開始されましたが、三月には掲載中止。それでも翌年には私家版として上巻を刊行し、谷崎が執念を見せますが、これもまた軍部により印刷・配布の禁止を命ぜられてしまいます。

この間の書簡には、果たして出版できる日が来るのかという切実な危機感があります。

昭和十九年九月十五日 松子より潤一郎

(前略)「細雪」日夜念じて居りましたのに届かずとはかへすかへすもうらみに存じます  
国家存亡の際とはいひながら御心中おもひ私  
も亦やる方も無い思ひに泣いて居ります

此の上は私の手にて出来る限り写したく心を定めました 一二年全力を注いでみよう

存じます 読ミ書きの事なら根気がつづきます

ゆえ 源氏もさうして今日に残ったのでござ  
いますから(後略)

(谷崎潤一郎の恋文―松子・重子姉妹との書簡集  
編者・千葉俊二―平成二十七(二〇一五年)一月十日、  
中央公論新社発行より)

東光もこの辺りの事情については承知していたようで、出版差止め事件から約十五年が経過しても怒りが収まらない調子で次のように書いています。

先生が「細雪」を書いたというので、軍の報道部にいた何とか少佐とか大尉とかいう奴は、断乎として谷崎を消して仕舞うと言ったぞうだ。それを直接聞いた文学報国会の仕事をしてた舎弟の日出海から注意を受けた僕は、それならば僕もまたその少佐野郎という奴を消してやろうと密かに計画したことがあった。(中略)

敗戦後、此奴等は仲間と銀座裏あたりで料理屋を開店し、闇米の銀飯をくわせながら、百八十度の転向だと額を叩いて客席を泳ぎ廻っていたと聞いて、何という下司野郎だろう

と思った。(中略)

それに命なからえて恥多い所業をして恬として  
いるのだから、これでは負けるのは当たり前だ。軍人の腐敗墮落の極った頂点で大戦争を演じたのだ。してみると戦争というものは概して人間の精神が弛緩している時に起る作用のような気がする。それにひきかえて先生は軍の圧迫の下で悠々と書きつづけ、遂に名作を残されたのは真に偉大というのほかないのであった。

(「東光金蘭帖」昭和三十四(一九五九年)

十一月十日、中央公論社発行より)

日本文学史上に燦然と輝く「細雪」誕生の背景にある物語を知るとは、作品を味わう魅力とはまた別の感慨があります。実は、今東光会心の傑作「鬪鶏」にも、雑誌掲載に至るまでの、谷崎との物語がありますが、紙数が尽きました。次回をお楽しみに。



【2016年11月～2017年1月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

### 展示

◎10月22日(土)～12月23日(祝)  
企画展「植田家のにこる浮世絵っ!」

◇11/23(祝・水) 14:00～(20分程)  
ギャラリートーク(学芸員による展示解説)

2017年

◎1月5日(木)～3月5日(日)  
企画展「昔のくらしの道具365日」

※同時開催「施設周辺写生作品展示(ギャラリー)」～1/30

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

#### ◎11月

19日(土) 植松灯籠の日(夜間開館) 17:00～20:30 ※無料  
20日(日) 旧家で愉しむ食事会  
26日(土) コンサート八尾の音楽家「旧家でBossa(ボッサ)」

#### ◎12月

10日(土) こどもガイド体験講座(冬)  
18日(日) 講座「古文書に見る植田家」講師:北林千鶴(八尾市史編纂室)  
23日(祝・金) すこしの昔のくらし体験「おもちつき大会」

2017年

#### ◎1月

8日(日) 連続講座「会所(かいしょ)①平野屋新田」  
15日(日) こどものためのお茶会



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12 December

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2017/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日: 火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料: 一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

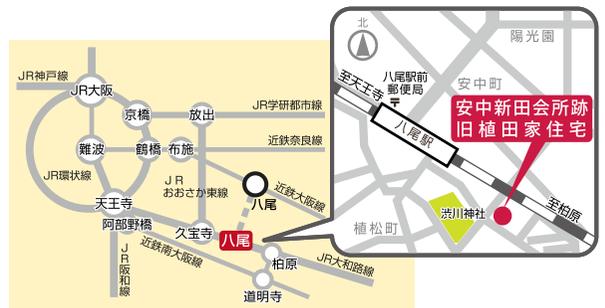
●お問い合わせ

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

